

研究主題

考え、かかわり、学びをつなぐ 力をもった児童の育成

～学びの必然性がある学習課題設定の工夫（1年次）～

<主題設定の理由>

二小では、6年間、国語科の文学教材の読解を中心として研究を進めてきた。その目標は、構造的読解力を身につけさせ、自分の思いや考えを言葉で表現させることである。指標として、学習用語を6年間で系統的に学ぶことができるよう二小スタンダードを作成した。学習用語を、考えたことを認識し、論理的に思考を組み立てるためのツールとして活用し、物語の読みを深める授業づくりを工夫してきた。また、言葉でつながる体験を授業の中に多く設定することも大切にし、子どもたちの発言をつなぐことにも取り組んだ。その過程では、学習用語の活用によって「今、何を読み取らなくてはならないのか・何を考えなくてはならないのか」ということがわかりやすくなり、子どもたちの論理的な思考を引き出し、子どもたちが自らの読み(解釈)を語り合い、学びあう姿があった。

しかし、二小の子どもたちには、施設児童をはじめとした自己肯定感の低い子ども、言葉の力が弱く他者とのかかわりが苦手な子どもが多い実態がある。多様性をそのまま受け止めることができず、関係づくりがうまくいかないなど、互いを認め合いながら、自分を高めていく力の弱さがある。また、学力テスト等の分析から、書く力や、自分から進んで粘り強く取り組む姿勢の弱さなどが課題として挙がっている。すべての子どもが、より主体的・積極的に参加できる授業、また、発表の交流にとどまらずペア・グループワークがより深まりのある活動となる授業を目指し、新学習指導要領でうたわれている「主体的、対話的で深い学び」をめざしたい。

なお、自己肯定感（自尊感情）とは、他者と関わらせ、他者との関係性の中で自己を捉え直し、ありのままの自分を受容することで高まっていく。また、人と人を関わらせる一つの大きな手段が「言葉」である。これは、本校の授業づくりの大切な視点になっている。

～本年度の研究主題について～

児童一人ひとりが自らの考えを持ち、学びに向かう第一段階を大切にす。まず、「考えを持つ」ための「一人学び」を大切にすることで、授業の展開の中でのペアワークやグループワークが、単なる役割分担によるかかわりや一方通行なかかわりとならないようにしたい。その上で、多様なかかわりを意図的に持たせることが「主体的、対話的で深い学び」につながると考える。多様なかかわりとは、児童同士のかかわりだけでなく、指導者とのかかわりやテキストとのかかわり、自己内対話による自分自身とのかかわりも含まれる。

学びをつなぐのは、児童自身である。もちろん、教師が意図的に関わり、促し、ねらいに向かって学びをつなぐためのファシリテーションを行う。学びを通して児童同士がつながり、作品がつながり、児童自身が自分とつながっていくことで、子どもたちが、「もっと知りたい」「わかりたい」と自己の学びをつなぎ、自己を高め、よりよく生きる姿をめざしたい。このためには授業での発問・指示が重要な役割を果たす。また、思考を深めるためには、思考ツールやICTの活用によって可視化を図ることも有効である。

学びの必然性がある学習課題設定とは、単に導入時の課題設定だけでなく、グループ活動などの対話をさせる際に、教師の意図する活動となるよう設定する課題も含まれる。また、振り返り活動に

おけるメタ認知等を促す課題も同様である。

学びの必然性とは、子どもの視点から言えば、「不思議だな」「なぜだろう」などといった考えたくなる、学びたくなる状態のことであり、それは、初めての驚きや既習事項とのズレ、多様な友だちの意見に出合ったときなどに引き起こされる。また、教師の視点から言えば、考えさせ、かかわらせ、学びをつなぐ力を育成するための明確な意図があることである。例えば、話し合い活動をさせるのも、課題を共有させるためなのか、課題を追究し練り上げるためなのかといった意図があるはずである。それを明確に意図して授業を創造することで、学習者が、その課題の必然性を学びとる。

なお、本研究主題は、45分の1授業単位のみをねらいとしたものではない。授業は学校教育の要であるが、一人ひとりの生活の安定やあたたかい学級学年集団づくりが根底にあることはもちろん、授業での学びが様々な学校の教育活動を通して生かされていくことで、よりよく生きる子どもたちの育成をめざしたい。

<必然性のある学習課題設定の工夫について>

- ・教材との出合わせ方の工夫（知的好奇心の喚起や実生活とのつながり等）
- ・多様な課題・問いを生み出す発問・教材・資料等の提示（既習事項・既有知識とのズレ等）
- ・必要感を高める課題設定（意見の対立・葛藤・生活課題の解決等）
- ・生活と関連付けた計画・ゴールの設定や道筋を明確にした計画等

